

NTCT「東アジアにおけるカーボンニュートラルに向けて」WG メモ

2023年11月20日
東アジア共同体評議会（CEAC）事務局



日中韓三国枠組みのトラック2の「日中韓三国協力研究所連合（The Network of Trilateral Cooperation Think-tanks：NTCT）」において、日本が2021年度より主催している「東アジアにおけるカーボンニュートラルに向けて」WGが、11月20日に日本主催により、下記1．～5．の要領でオンライン開催された。

1. 日 時：2023年11月20日（水）14時より17時（日本時間）まで
2. 開催方法：オンライン形式（ZOOM ミーティング）
3. 出席者：以下 WG メンバーのほか、日本側事務局など
田村堅太郎 地球環境戦略研究機関（IGES）プログラムディレクター（日本）
松尾 直樹 IGES 上席研究員（日本）
LIU Zhe 中国社会科学院持続可能な発展研究センター副部長（中国）
Sangmin SHIM 韓国科学技術院グリーン成長・持続可能性研究院教授（韓国）

4. プログラム

Session 1: Cooperation in Climate-friendly Technologies among the Three Countries

Moderator: Naoki MATSUO

Principal Policy Researcher, Strategic Management Office, Institute for Global Environmental Strategies (Japan)

Speaker A: Kentaro TAMURA (15 min.)

Programme Director, Climate and Energy Area, Institute for Global Environmental Strategies (Japan)

Speaker B: Zhe LIU (15 min.)

Deputy Director, International Governance Department, Research Center for Sustainable Development, Chinese Academy of Social Sciences and Director, Urban Economics Society (China)

Speaker C: Sangmin SHIM (15 min.)
Research Fellow, Asan Institute for Policy Studies (Korea)

Discussion: All members (45 min.)

Session 2: Carbon Markets and Cooperation among the Three Countries

Moderator: Kentaro TAMURA
Programme Director, Climate and Energy Area, Institute for Global Environmental Strategies (Japan)

Speaker A: Naoki MATSUO (15 min.)
Principal Policy Researcher, Strategic Management Office, Institute for Global Environmental Strategies (Japan)

Speaker B: Sangmin SHIM (15 min.)
Research Fellow, Asan Institute for Policy Studies (Korea)

Speaker C: Zhe LIU (15 min.)
Deputy Director, International Governance Department, Research Center for Sustainable Development, Chinese Academy of Social Sciences and Director, Urban Economics Society (China)

Discussion: All members (45 min.)

Closing Remark

5. 内容

上記4. プログラムに沿って報告、議論が行われた。特に、クリーン水素、製鉄、運輸部門、地方における再生可能エネルギー開発について「三国間の協力が最も期待できるのはどの分野・産業か」、「そのような協力の具体的な形態や方法はあるか」、「そのような協力が実現するための前提条件はあるか」、について議論した。また、炭素市場の分野における協力の余地についても議論した。中国と韓国はすでに国内排出量取引制度（ETS）を確立し、運用を開始しており、日本は最近、2023年から段階的にETSを発展させることを決定し、さらに、パリ協定第6条の詳細なルールが策定され、共同クレジット制度（JCM）のような様々な二国間イニシアティブがすでに実施されている。こうした動きを踏まえ、「各国の国内排出量取引制度の現状はどうなっているのか」、また、「6条メカニズムとの連動はあるのか」、「各国の国内排出権取引制度の現状はどうなっているのか、また、第6条のメカニズムとリンクさせるつもりなのか」、「中国、日本、韓国の間で、海外で炭素クレジットを生産し、それを自国のNDCの達成に使用しようとする競争は起こるのか」、「カーボンオフセットの共同開発や地域炭素市場の設立という形で、北東アジア3カ国が協力する余地はあるのか」などについて議論した。

以上の議論を踏まえて、本WGでは政策提言を含めた「最終報告書」を2024年3月に取りまとめて、NTCTの枠組みを通じて日中韓外相会議などに提出していく予定である。

以上
文責：事務局